

令和7年11月13日

広島信用金庫

令和7年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 川上 武）の令和7年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 令和7年度 上半期業績概要

(1) 業容について

預 金	1, 7 1 3, 3 9 1 百万円	（前期比 24, 340 百万円増 1.4%増）
貸 出 金	1, 0 9 6, 4 9 6 百万円	（前期比 10, 809 百万円増 0.9%増）

預金は、地域に密着した営業活動を推進してまいりました結果、7年3月末比 243 億円増加し、1兆7, 133 億円となりました。

貸出金は、地域経済の活性化をはかるため、地域の皆さまの資金ニーズに積極的に対応いたしました結果、7年3月末比 108 億円増加し、1兆964 億円となりました。

(2) 利益について

経 常 収 益	1 2, 5 5 9 百万円	（前年同期比 1, 940 百万円増 18.2%増）
実質業務純益	2, 1 1 8 百万円	（前年同期比 227 百万円増 12.0%増）
コア業務純益	2, 1 1 8 百万円	（前年同期比 101 百万円増 5.0%増）
経 常 利 益	1, 4 1 7 百万円	（前年同期比 172 百万円増 13.8%増）
当 期 純 利 益	1, 0 8 4 百万円	（前年同期比 197 百万円増 22.2%増）

貸出金利息や預け金利息の増加などを主要因に、経常収益は前年同期比 19億40 百万円増収の 125億59 百万円、コア業務純益は 1億1 百万円増益の 21億18 百万円、経常利益は 1億72 百万円増益の 14億17 百万円となりました。

ここから特別損益、法人税等を差し引いた最終利益である当期純利益は、前年同期比 1億97 百万円増益の、10億84 百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の処理を行いました結果、令和7年度上半期における不良債権処理額は5億54百万円（前年同期比98百万円増）となりました。

(4) 信用金庫法および金融再生法による開示債権について

（金額単位：百万円）

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保全率 (②+③) / ①
破産更生債権等	4,297	1,147	3,149	100.0%
危険債権	28,463	17,036	5,895	80.5%
要管理債権	608	298	58	58.7%
三月以上延滞債権	11	11	—	100.0%
貸出条件緩和債権	597	287	58	57.9%
小計	33,369	18,482	9,104	82.6%
正常債権	1,068,633			
合計	1,102,003			

信用金庫法および金融再生法上の不良債権額は、333億69百万円（7年3月末比3億69百万円増、1.1%増）、不良債権比率は3.02%となりました。

なお、不良債権額のうち82.6%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自己資本総額 ① - ②	108,544 百万円
コア資本に係る基礎項目 ①	112,093 百万円
コア資本に係る調整項目 ②	3,549 百万円
リスクアセット	812,363 百万円
自己資本比率	13.36%

自己資本比率は、7年3月末比0.06ポイント低下の13.36%となりましたが、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和7年度決算予想（令和8年3月期予想）

- ・ 経常利益 30 億円程度 ・ 当期純利益 21 億円程度
- ・ 自己資本比率 13 %台 ・ 不良債権比率 3 %台

[お問い合わせ先] 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030